

すべての町民の暮らしを応援します

●編集・発行／佐用町立図書館（さよう文化情報センター内）  
〒679-5301 佐用郡佐用町佐用 2585 番地  
Tel : 0790-82-0874 Fax : 0790-82-0313 E-Mail : toshokan@town.sayo.lg.jp

## Book Review

図書館司書おすすめの一冊



## 『鬼の筆 -戦後最大の脚本家・橋本忍の栄光と挫折』

春日 太一／著  
(文藝春秋) 2023年

「羅生門」「七人の侍」「砂の器」…。誰もが一度はその名を耳にしたことがある昭和を代表する映画の数々。脚本を手がけた橋本忍は、それらの作品において自分ではどうにもならない力に理不尽に踏みこまれる人間の姿(鬼)を描いたという。なぜ、彼はそのような「鬼」ばかりを描いたのか。本書は、彼の創作の裏側、全貌を本人への取材はもとより、『複眼の映像』や創作ノート、関係者からの聞き取りを交え解き明かそうと試みる。

大正7年、兵庫県鶴居村(現・市川町)に生まれ、幼少期から小料理屋をする父を手伝い、博打好きで芝居小屋も経営していた父の姿を見て育った橋本は、自由な世界に憧れを抱いていた。また、祖母の昔話が好きで、その中でも何度もせがんで聞いた農民一揆「生野騒動」が創作の原点だという。脚本との出会いは、結核で収容された軍療養所で目にした映画雑誌で、後、そこでの生活を描いた「山の兵隊」を伊丹万作に送って、返事を貰ったことから師事することになる。デビュー作「羅生門」は、伊丹つながりで黒澤明に渡してもらった脚本が目にとまったことがきっかけだが、映画完成時はまだサラリーマンだったそうだ。その後、職業脚本家となり、天性の才能と努力して得た書力、時勢を捉える嗅覚で人気脚本家へと上り詰めていく。

執筆当初から橋本自身の勘違いや関係者同士の認識の違いなど顛末に辿り着くまでの混沌とした状況が作品毎に章立てされ、丁寧に検証、考察し、当時の状況が詳らかにされる過程は興味深い。12年をかけ出版した著者の思いや稀代の脚本家である橋本の魅力が存分に伝わる一冊である。  
(蔭木)

### 1月 睦月 図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1 年始休館日	2 年始休館日	3 年始休館日	4 年始休館日	5	6 おはなし会 14:00~
7 おはなし会 10:30~ 11:00~	8 月曜休館日	9	10	11	12 わらべうたと えほんの会 10:30~	13 おはなし会 14:00~
14 おはなし会 10:30~ 11:00~	15 月曜休館日	16	17	18	19	20 おはなし会 14:00~
21 おはなし会 10:30~ 11:00~	22 月曜休館日	23	24	25	26	27 おはなし会 14:00~
28 おはなし会 10:30~ 11:00~	29 月曜休館日	30	31 館内整理日			

### 2月 如月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

#### ※年始休館

1月1日(月)~1月4日(木)

#### ※館内整理日による休館

1月31日(水)、2月29日(木)

#### ※祝日による休館

2月11日(日)、2月23日(金)

■色の日は休館日です。

開館時間／午前10時から午後6時

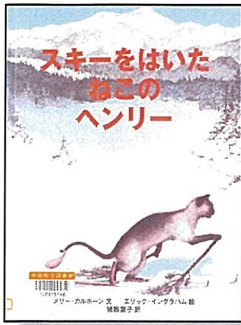
# Book Review

図書館司書おすすめの一冊

◆としょかんの電話 82-087

## 『スキーをはいたねこのヘンリー』

メリー・カルホーン／文  
エリック・イングラハム／絵  
猪熊葉子／訳  
(リブリオ出版) 2002年



ねこのヘンリーは、後ろ足で立って歩けます。楽しい時は、しっぽで調子をとりながら歩きまわ

るほどでした。

ある日、家の人たちと山小屋へでかけた時、男の子がヘンリー用の小さなスキーを作ってはかせてようとしたのですが、ヘンリーはいやでした。帰り支度の車の中、ヘンリーは毛糸のねずみを忘れたことに気づき、小屋に取りに戻り雪山に取り残されてしまいます。ヘンリーは小屋に入ることもできず、スキーをはいて帰る決心をします。ヘンリーは歌をうたって自分を励ましながら、どうにか雪の中を進んでいきました。雪が止み晴れてくると、下り坂では風を切って楽しく上手に滑りました。途中、オオシカやウサギ、カケスに出くわし、恐ろしいコヨーテが追いかけてきた時にはくたびれて、近づくコヨーテのうなり声に、もうおしまいだと思いました。

淡く落ち着いた色彩で、雪の中の家族や動物たちの様子が丁寧に描かれています。毛糸のねずみをしっぽに結びつけ雪の中を必死に滑るヘンリーの姿が愛おしく、迎えのヘッドライトが見え、おとうさんの腕にだかれる様子に安堵します。(水鳥)

## 『ながいながいペンギンの話』

いぬい とみこ／作  
山田 三郎／絵  
(理論社) 1998年



ルルとキキは南極の島で生まれたペンギンの兄弟です。ある日、お父さんとお母さんが海にオキアミをとりに出かけたきり、なかなか帰っ

てきません。キキはお腹をすかせて泣きつかれて眠ってしまいましたが、ルルは海辺が騒がしく、おもしろいことがあるのではないかと考え外へ出ていきます。凍った雪の上を滑っていくと、大カモメがルルを食べようと舞い降りてきました。間一髪で氷の割れ目に飛び込み、助かりますが、そこで出会ったおばあさんペンギンから2本足の恐ろしい人間の話が聞きます。家に帰ろうと歩き出したルルですが、すっかりくたびれて雪の中に倒れてしまい、通りかかった人間に助けられ、捕鯨船に運ばれました。一方、両親と島の何千というペンギンたちは、ルルが人間に連れていかれたと知って、助けようと船を取り囲みます。「くしゃみのルルとさむがりやのキキ」

好奇心旺盛で冒険心のあるルルの行動にハラハラするとともに、無事、両親の元に戻る結末に安堵します。他にも、氷にのったまま流されたルルとキキが、家に帰る途中、皇帝ペンギンの島へ行く話や、大カモメの大群に襲われる話など、生まれてから1年近くの出来事3話が収められ、ルルとキキが成長していく様子が生き生きと描かれています。

(尾崎)

●あそばせ隊 おはなし会  
毎週土曜日／14:00～14:30  
幼児・小学生対象

●図書館 おはなし会 毎週日曜日

○小さい人(5歳以上)／10:30～11:00  
1月のおはなし「うさぎとひきもち争い」

○大きい人(小学3年生以上)／11:00～11:30  
1月のおはなし「絵本の会」、「うば捨て山」

★いずれも図書館おはなしコーナー★

※事前の申し込みは不要です

おはなし会



播磨科学公園都市圏域定住自立圏事業

### 本の島めぐりマップ (開催中)

子どもたちの成長に合わせた本選びのヒントになるリストを作りました。ゲーム感覚で楽しみながら読み進めましょう。

- 対象：幼児（年少）から小学4年生くらい
- 進め方：各自のレベルに合わせて地図を選び、島めぐりをしながら本を読み進めてゴールを目指します。地図はレベル別に4種類あります。
- 開催時期：3月末まで。図書館カウンターで配布中

information